



「すべての受験は、英語に通ず」

英語は言うまでもなく受験の要。どの大学を目指すにしても、英語は「つきもの」であり、合否を大きく左右する大事な教科である。まさに「英語を制する者が受験を制する」と言っても過言ではない。

- ★英語が重要な理由① どの大学入試でも、必須科目！大学は高い語学力を求めている。
- ★英語が重要な理由② どの大学入試でも、高配点！他教科の1.5~2倍の得点源となる。
- ★英語が重要な理由③ 得意になれば、どの問題でも高得点！取りこぼしが少ない。

だが、本校では伝統的に英語の基礎学力が低く、特に本年度の模試等での成績は例年以上に振るわない。よって、大学受験を控える3年生、さらに大学進学を目指す1・2年生は、英語に重点を置いた学習計画を立て、英語の学力アップをはかることが合格への必須条件となる。そこで英語科の猪狩先生より、自身の体験を交えて英語学習法・英語力アップのカギについて、君たちへの熱いメッセージ・アドバイスをいただいた。

「単語は決めた一冊(FORMULA1700)を毎日寝る前に暗記」猪狩真紀先生



英語の教員になり半年経つ私ですが、今日は英語を専門に学んでいる一人として自分の経験を書かせていただきます。私は、高校生の時に「受験に必要なだから」と渋々勉強していました。その高校生の時に行っていた勉強法は3つあります。1つは精読です。模試を受けた後、長文1問に2時間くらいかけて読み直しました。意味のまとまりに区切りを入れたり、初見の熟語、単語やSVOCを書き込んだりしました。精読を繰り返すと、初見の問題にも似た文法や単語が出てきます。苦手な長文が理解しやすくなり、嬉しかったことを覚えています。2つ目は単語です。「絶対最後まで覚える」と決めた一冊を毎日寝る前に暗記しました。5ページごと進み、最後までいったら最初から読み直し、忘れた単語にマークを付けました。最初は覚えが悪く悩むこともありましたが、しかし、単語暗記の習慣がついた頃には、長文が読みやすくなっていました。3つ目は参考書です。今思うと変ですが、受験生の時は友達と参考書に名前を付けてよく持ち歩いていました。模試の復習や授業で分からないとき常に調べられる状態にしてみてください。本当に教員の今でも心強い相棒です。私は、英語の好きな人、嫌いな人がいて当然だと思っています。しかし、英語の仕事につかなくても皆さんの目指す夢をつかむためには避けて通れない教科です。今回紹介した3つは私の体験談で参考程度です。しかし、どの方法そして他教科にも共通することは「継続」です。皆さんが継続し頑張る姿をこれからも見守り、私自身もレベルアップしたいので一緒に頑張りましょう！何かあれば遠慮なくいつでも相談や質問に来てもらえれば嬉しいです。

努力 改めて「努力」という言葉を考える！

努力という耳慣れた当たり前の言葉、皆さんにとっては「耳にタコ」というほど聞いてきた言葉だろう。この努力という言葉は、頑張れ、と同様に極めて都合の良い、頻繁に使われる言葉でもある。よって、私などは「頑張れ」「努力しよう」・・・と何かにつけつつい使ってしまう、よく後悔したりする。しかし、つい使ってしまうのは、それだけ使い勝手が良く、これに勝るふさわしい言葉が見つからないからだろう。努力は使い古された新鮮味のない言葉だが、下記に紹介する偉人の言葉からも、我々日本人にとっては「欠くことのできない不滅の言葉」なんだと改めて思い知らされる。

結局人生「地道な努力」が一番大切なのである。

「あ、やるときゃやらなきゃダメなのよ」 歌：クレイジーケンバンド

やればできるよ できるよやれば
やるしかないんだから やらなきゃダメですよ
努力なんて言葉はかっこわるいけど
努力なしでそれはなし得ぬもんだよ



時折耳にすると「なるほど」「確かにそうだよなあ」と妙に納得・共感させられる曲である。きっと皆さんのほとんどが知らない歌だと思いますが、この歌が聴こえてくると「もっと頑張ってみるか!」と少し奮い立つそんな曲だ。軽やかに歌っているが、努力することの、どこか核心を突く飾らない歌詞で、難しい偉人の名言以上に心に響いたりする。甲子園出場の愛媛・済美高校の校歌にも「やればできるよ、は魔法の言葉」と似たような歌詞もありましたが、3年生は、まさに今「あ、やるときゃやらなきゃダメなのよ」である。努力すればすべて成功するとは限らない。しかし、努力しなければ、ほとんどの夢や目標の実現が困難となることもまた確か。努力なしでも時間は過ぎるしそれなりの進路は決まる。だが、その先にあるものは、ほとんどの場合「後悔や妥協」となるだろう。

「努力は必ず報われる。もし、報われない努力があるとしたら、それは努力とは言えない。」 王貞治（プロ野球巨人・ダイエー元監督）

この言葉は、現役時代、一本足打法のホームラン王として巨人で活躍した王貞治の座右の銘。報われない努力は努力ではないという、世界記録のホームラン（868本）を打ち巨人のV9（9年連続日本一）の立役者であった王選手ならではの厳しい言葉。しかし、王選手は「たとえ結果に結びつかなくても、努力したことが必ずや人生に生きてくる」とも言っているのだから少しは救われる。報われなかった努力でもけっして無駄ではなく、経験として今後の人生の糧になるということである。

「努力できることが才能である。」 松井秀喜（プロ野球巨人・ヤンキース元選手）

これは、愛称ゴジラでおなじみの松井秀喜の好きな言葉である。松井選手が小学校3年生の

時に、父が墨で書いて手渡した言葉らしい。非凡な才能をもつ松井選手が努力したからこそその言葉であるとも言えるが、確かに最近、努力できること自体がその人の才能・実力ではないかと実感させられることも多い。ただ、君たちの中には努力できる才能を持っているにもかかわらず、まだ開花させていない人も少なからず存在している。努力=我慢！我慢によって努力を開花してほしいものだ。